第80号

本会は、会員相互の親睦をはかり、経済学部および母校の発展ならびに社会・文教の進歩に寄与することを目的とする。（同窓会会則第３条）

法政大学経済学部 同窓会報

2020年（令和２年）９月１日
法政大学経済学部同窓会（略称経友会）
発行人　村田　紀敏（同窓会会長）
編集人　執行部編集委員会
〒194－0298 東京都町田市相原町4342
法政大学経済学部研究棟４Ｆ－420号室
電話・FAX ０４２－７８３－２５５０
http：//www.hoseikeiyukai.jp/
郵便振替口座００１７０６－６０２０７０
三菱ＵＦＪ銀行橋本支店普通口座0166670

「ＯＢＯＧから学ぶ自由を生き抜く実践知」

卒業生が学生にリレー講義

経済学部創設100周年を記念して特別講義

経済学部創設１００周年を記念して特別講義「ＯＢＯＧから学ぶ自由を生き抜く実践知」が設置され、この春学期、20代から70代の経済学部の卒業生約20名が講師となって、学生にリレーで講義を行った。ご担当は、財務会計がご専攻の田中優希准教授。講師は多忙な現役の社会人であり、しかも新型コロナの影響で講義はオンラインに変わり、スケジュールも幾度か調整された。田中先生に講座実施のご感想をお伺いし、経友会４名の講師の講義模様を紹介する。

特別講義

「ＯＢＯＧから学ぶ自由を生き抜く実践知」

卒業生の多様な生き方に学ぶ

経済学部准教授　田中　優希

本講義（「ＯＢＯＧから学ぶ自由を生き抜く実践知」）は、学生がＯＢＯＧに直接話を伺うことで、自身のキャリアやライフプランを具体化することを目指して開講されました。

今年１００周年を迎えた法政大学経済学部は各界に人材を輩出し、日本社会をあらゆる面から支えています。しかし、学生には卒業生の活躍を知る機会がなかなかありません。あるとしても、ゼミやサークルなど局所的な交流に留まっているように思われます。これは非常にもったいないと日頃から考えておりましたので、１００周年という機会に、学生が卒業生の多様な生き方に触れ、行動を起こすきっかけを提供したいと考えました。

講師の選定では、卒業生とのつながりが強い先生方に、ぜひこの人を、という方をご紹介いただきました。経済学部同窓会にも４名の方をご紹介いただき、本講義のオオトリをつとめていただきました。こうしたご協力のおかげで、業界・職種・年代・性別ともにバラエティに富んだ講義が展開されました。この場を借りて、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

新型肺炎の影響でオンラインの講義となりましたが、３００名を超える受講生からは、講義中も多数の質問が届き、教場講義にひけを取らない盛り上がりを見せた回ばかりでした。学生の感想文からは、本講義の目的が十分に果たされたことが伺えます。ご登壇いただいたＯＢＯＧの方に感想文をお届けしたところ、ＯＢＯＧと学生の間に新しいつながりができたケースもありました。

この卒業生による講義を受けて、学生たちが次の一歩を踏み出してくれることを願っています。

現役学生に思いを込めて

「会社は人生修養の場」

70年卒　潮崎　敏彦

６月22日に経済学部の学生の授業「ＯＢＯＧから学ぶ自由を生き抜く実践知」のビデオ撮影を市ケ谷校舎で行いました。今回は新型コロナウイルスの影響で、教室での講義ではなく、ビデオでの講義となり、ラジオ局と同じ立派なスタジオで45分くらいお話しをさせていただきました。

３年生が対象でしたので、テーマとしては、「会社とは？　会社は人生修養の場。いやなこともあるが、目的、課題が明確なので、大変楽しいところ」と、「就活の注意点：イヤイヤ入社しない。本当に入社して良かったと思える就職先を選ぶ」を軸に話をしました。

そして、今、学生生活で大切なことは、「４年間で１つで良いから、これだけは自慢できることを作ってください」と、アドバイスしました。

（潮崎氏＝文化シャッター㈱代表取締役社長、法政大学理事、同窓会副会長）

「危機の中の経営判断」

66年卒　村田　紀敏

コロナ禍に直面し、学生さんと直接対面の講義ではなくビデオ収録となりました。一方通行の講義のため、学生の反応を感じながら言葉を繋げることができず苦労しました。また講義時間が40～50分ですので十分に伝えられるか心配しましたが、結局70分程いただくことができました。

テーマはコロナ危機ですので、危機は新たな時代の前触れと考え、私が経験した「社会人第一歩」と経営危機に直面した「三つの経営判断、失敗と成功」を語り、最後に若き学生へのエールの言葉を送りました。

学生には事前に資料が配られ、多くの質問が寄せられていましたが、録画直前に見せられたこともあり、直接の回答をすることができませんでした。しかし講義内容で答えていることもあり、それを代用させていただきました。

今後このような場をいただければ、学生との対談方式や、会場からの質問に答

（２面につづく）

経済学部100周年を祝う

―新型コロナ禍の下で―

経済学部長　鈴木　豊

今般、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、本年10月31日に予定していた「経済学部創設１００周年記念行事」は、大幅な修正をしなければならなくなりました。大学の基本方針としても、学生、教職員及び卒業生の健康と安全を確保すること、新型コロナの感染拡大を防止する社会的責任を果たすことが掲げられており、新型コロナ禍の下での社会的行動基準に照らしても、薩埵ホールでの記念パーティーは、残念ながら中止とせざるを得ません。

しかし、法政大学経済学部にとって本年度は、まぎれもなく、創設１００周年となる記念すべき年ですので、その中で最善の対処を追求し、記念の諸行事につき、皆様とともに１００周年を祝いたいと思います。秋学期の感染状況等にも大きく依存しますが、何卒ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

▼詳細は2面に

田中優希准教授
（専攻は財務会計）

2020年度 経済学部同窓会定期幹事総会

新型コロナ対応で書面開催に

経済学部同窓会2020年度定期幹事総会は、新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、出席者が一堂に会する形ではなく、書面形式により、６月６日（土）付けで開催された。森嘉兵衛賞授与式は書面で行われ、経済学部オレンジの集いと懇親パーティーは行われなかった。

▼関連記事＝2・3面

定期総会

総会議案書は事前に代表・常任各幹事に届けられ、検討に付された。

議事では、２０１９年度事業報告、決算・監査報告、20年度活動方針・事業計画（案）が、活動スケジュールの一部訂正を除きすべて原案通り可決・承認された。

本年度の活動方針の特徴は、新型コロナウイルス感染症の影響により集会や会議の開催等に制約がかかることが予想されることから、諸行事やイベントにＩＣＴ（情報通信技術）を活用して事業継続をめざすことや、女性部会や若手会員さらに現役学生との交流を促進して次世代につなげる人材の確保に努めること、さらに、中期的視点からアナログからデジタルへの移行を含め同窓会の未来像について研究を進めることなどが、くりかえし訴えられた。

森嘉兵衛賞

同窓会の表彰制度に基づく第28回森嘉兵衛賞は、本学経済学部長の鈴木豊氏の著書『中国経済の制度分析―契約理論・ゲーム理論アプローチ』（日本評論社、２０２０年刊）に決定した。

審査委員会は講評で「中国のめざましい経済発展を支えた諸制度の役割を契約理論やゲーム理論を駆使して体系的に分析した本書は、制度の正確な把握とオリジナリティ溢れる緻密な理論分析が展開された画期的なものである」と高く評価した。

録画スタジオ調整室

村田紀敏氏「３つの経営判断」

潮崎敏彦氏「会社とは？」

リレー講義風景

高森正雄氏「金融証券市場今昔」

花澤良三氏「起業のすすめ」

（写真提供：田中優希先生）
上右＝潮崎敏彦氏
上中＝村田紀敏氏
下右＝花澤良三氏
（以上３氏は市ケ谷キャンパスのスタジオで録画収録）
下中＝髙森正雄氏
（髙森氏は多摩キャンパスからオンラインで講義）
上＝調整室からみた録画スタジオ

お知らせ

2020年度 忘年パーティーについて

2020年度の経済学部同窓会忘年パーティーにつきましては、10月31日（土）に開催が予定されている法政大学経済学部創設100周年記念式典に合流する形をとることにより、12月に改めて開催することは致しませんのでご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

なお、同記念式典が新型コロナウイルス感染症の影響等により予定どおり開催されない場合においては、そのような事情に鑑み、忘年パーティーの開催も見送ることと致します。

2020年７月16日
経済学部同窓会

1面から続く OBOGから学ぶ

える方式が面白いと思います。

大勢の中での学生の「質問力」が磨かれていくのではないかと思います。

今回の講義は素晴らしい企画だと思います。ありがとうございました。

（村田氏＝セブン＆アイホールディングス代表取締役社長・会長を歴任、現在同社顧問。同窓会会長）

「私の起業のすすめ」

71年卒　花澤　良三

リレー講義の「起業のすすめ」の録画撮りを行いました。慣れないスタジオでの対応で、緊張して話にメリハリが出せず、自分の伝えたいことが十分に発揮できなかったと反省しています。しかし先人の知恵を少しでも学生さんに理解してもらえればと思います。

今回は、「講義」という形で直接学生と「双方向」で向き合えることに意義を感じています。事前に私の履歴を学生に公表していましたので、重複も含め100以上の質問が来ており、関心の深さを実感しました。質問は、私の以前の職場の「セブンーイレブン・ジャパン」のことも多かったのですが、起業に対するものも多く、「不確実性の時代」に新たな方向性として起業を提案できたことに意義を感じています。

（花澤氏＝日本勧業角丸証券、セブンーイレブン・ジャパンを経て、愛花創業㈱を設立。同窓会幹事長）

「金融証券市場の今昔」

70年卒　髙森　正雄

7月4日（土）午前にリレー講義をオンラインで行った。パワーポイントで作成した投影資料を用いながら、多摩キャンパスの会議室からパソコンで受講生に発信する仕組みだ。

自分が、1970年から約半世紀を日本橋兜町で過ごしたことから、50年前の金融証券市場と現在のそれとを様々な角度から比較しつつ話を進めた。当時はすべてが手作業の時代であったし、日本経済も現在とは比較にならないぐらい小さかったから、受講生には、この半世紀の間に日本が経済的にいかに飛躍的発展を遂げたかを伝えることができたと思う。今回の講義が、彼らにとって、今後経済学を学ぶ上でいささかなりとも役に立てば幸いである。

（髙森氏＝東京証券取引所調査部長、極東証券常務執行役員、同常勤監査役等を歴任。同窓会事務局長）

オンライン講義の一画面

解説　20年度同窓会活動方針・計画

持続可能な同窓会作りに取り組む

幹事長　花澤　良三

（1）2020年度はスタートから「新型コロナウイルス禍」に見舞われ、定期幹事総会も通常通りの開催ができず、総会議案書を幹事の皆さんに送付し意見をいただくという形にせざるをえませんでした。このような状況に対応するため、「経友会」も「働き方改革」として、組織運営を根本から見直すことが必要になりました。今までのように皆が1カ所に集まっての会議やイベントが制約される環境に対応するため、思い切った運営の見直しを迫られています。

世の中は、情報伝達の手段も「紙」からパソコン、スマートフォンに移行しており、「5G」の時代になっています。組織運営においても、このような新技術「ICT（情報通信技術）」を活用して、リモートでの対応に取り組みます。

（2）「ICT」での対応を積極的に行うことで、次世代の運営を担う「若手」や「女性」の参加がしやすい環境作りをしていきます。それぞれの仕事の都合や家庭の都合で、会議やイベントに出席できなかった会員たちの意見や要望を聞きやすい環境作りを行います。

（3）『同窓会報』の発行は、広報部会の皆さんに、長年にわたって献身的な努力で、対応してもらってきました。編集に携わっていただいた方々も高齢になられて、これ以上負担をお願いすることが限界に達しています。これを次世代に引き継ぐことを今期の最大の課題として取り組みます。

（4）経友会を持続可能な組織にしていくためには、今までの発想を根本的に変える必要があります。従来の「紙媒体」中心から、「スマートフォン」に対応する取り組みが、次世代の人たちとの交流に求められています。これに対応していきます。

（5）今年は、1920年（大正9年）の経済学部の創設から、記念すべき「100周年」を迎えます。100周年は本来大学の行事です。経友会の特徴は、「卒業生」「教授会」「学生」と一体になって作られた組織であることです。この特徴を生かして、記念行事は3者一体になって取り組んでいきたいと考えています。

同窓会としては、①記念誌の発行を「村串仁三郎副会長」と「嶋崇組織部会長」に取り組んでもらっています。「田中優子総長」「郭洋春立教大学総長」「鈴木豊経済学部長」等から寄稿されており、内容のあるものになります。

②「リレー講義」に取り組みます。経友会からは、村田紀敏会長、潮崎敏彦顧問と髙森正雄、花澤良三が対応します。学生との距離を縮める対応に取り組みます。

③学生のプレゼンテーション大会に協賛します。100周年に対応して特別な大会とします。

④同窓会の皆様方のご厚志により、多くのご寄付が寄せられています。今後この寄付を基金として、学生支援活動を充実させていきます。

（6）まとめ　現在は、今後「経友会」を持続可能な組織に改革していく途上にあります。長い間活動に従事していただいた、諸先輩方には、違和感のある対応もあるかと思いますが、新しい活動に、ご理解をお願いします。

幹事総会で19年度決算・20年度予算承認

収入減少により収支は赤字となるも繰越金は増加

新型コロナウイルスの影響で書面開催となった6月6日の定期総会で19年度決算及び20年度予算が承認された。（計表は3面に）

19年度決算

収入合計は対予算比45万円の減少となった。会費、寄付金、広告収入及び雑収入の落ち込みが目立つ。雑収入の減少は、総会や忘年会の残余金が減ったことによる。

支出は、ほとんどの項目で削減が図られた。人件費の対予算比増が目立つが、これは、期末の給与計上時期の技術的変更が予算に十分反映されていなかったことによるものである。

以上の結果、19年度の収支は、31万円強の赤字となった。ただし、終身会費収入の定率繰入（20％）採用により、繰越金は307万円と、前年度から50万円増加しており、いささかなりとも財政基盤の強化につながっている。

20年度予算

20年度予算については、引き続き収入減は避けられないとの考えから、予算規模を前年度からさらに縮小させた。

収入については、年会費、広告収入、雑収入の減少を見込み、前年度比36万円減の425万円とした。他方、支出に関しては、ほぼすべての項目について削減を図ることとし、規模を前年度比60万円減の430万円に縮小した。

その結果、20年度は4万円強の赤字予算となるが、繰越金が比較的潤沢にあるため、財政への影響は軽微にとどまる見通しである。

ただ、会費及び寄付金の予算達成は困難をきわめる可能性が高く、支出を削減できたとしても、赤字が予定より膨らむことも想定しておく必要がある。

上記のような財政状況ですので、会員の皆様におかれましては、引き続き温かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（事務局長　髙森）

新常任幹事紹介

代表・常任合同幹事会で次の5氏が常任幹事に推薦・承認されました。

（敬称略）

齊藤栄子（15年経商卒）　組織部会

和泉賢一（18年経経卒）　組織部会

渡邉瑞江（02年経経卒）　広報部会

岡野哲也（04年経経卒）　総務部会

（以上、20年3月19日付）

川南卓也（17年経商卒）　広報部会・HP部会

（以上、20年7月16日付）

経済学部創設100周年記念行事

……記念パーティーは中止に……

記念式典は10月31日（土）に

経済学部は、本年、創設100周年を迎え、記念事業として、

◎100周年記念行事（式典）
◎学生プレゼンテーション大会
◎学部100周年ビデオの作成
◎経済学部OB・OGによるリレー講義
◎『経済志林』記念号発行

を計画してきました。

このうち「記念行事」は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、次のように修正されました。

【100周年記念行事（式典）】

日時：2020年10月31日（土）
場所：市ケ谷キャンパス外濠校舎
（実施時刻は未定）

第1部　学部長挨拶、100周年ビデオ上映　午後
（当初計画されていた記念講演の実施は流動的です）

第2部　学生プレゼンテーション大会決勝　午後
および表彰式　午後
（予選は午前中に行う）

第3部　記念パーティー
（中止となりました）

目玉企画「学生プレゼン大会」は12チームが競います。現役学生の「学びの姿」をご覧ください。

「経済学部OB・OGによるリレー講義」（特別講義「OBOGから学ぶ自由を生き抜く実践知」（半期2単位）は、1面で紹介したように、オンライン講義ながらも、盛況のうちに終了しました。

『経済志林』の経済学部100周年記念号を発行します。

100周年行事には、同窓会も力を入れて連携しています。会員諸兄姉のご協力をお願いします。

新型コロナの影響で状況は変わりますので、プログラム等の最新情報は、同窓会ホームページでご確認ください。

ありがとうございます

引き続きご協力をお願いいたします

経済学部創設100周年に係る同窓会事業

寄付金協力者ご芳名

2020年4月1日～8月7日
敬称略（50音順）

【50,000円】	小池健司	【7,000円】	【4,000】
元角昌三	斉藤幸男	田中常敦	江森利雄
【30,000円】	関口衛	藤田三郎	島弘
伊藤陽一	徳弘義彦	【6,000円】	【3,000円】
山川次郎	冨田良章	若松潤	石井彰
【20,000円】	中島徹夫	柳済龍	平山精一
榎本勝治	原木正司	【5,000円】	【2,000円】
倉川源治	廣野貴之	卯野修三	加藤義之
佐々木貞夫	藤山範英	小宮憲	川上良一
【10,000円】	森昭七	星規子	木内照雄
大吹敏晴	矢田義徳	堀喜久夫	木本克彦

法政大学経済学部同窓会
会長　村田紀敏
昭和41年経済学部卒

法政大学経済学部同窓会
会長代行　加藤毅
〒175-0082 東京都板橋区高島平五―三一―一二
電話　〇三（三九三〇）八六六五
一九六〇年経済学部経済学科卒（上杉ゼミ）

メガソーラーコンサルタント
愛花創業㈱代表取締役
法政大学経済学部同窓会
幹事長
総務部会長　花澤良三
〒290-0141 千葉県市原市ちはら台東二―一一―一三
電話　〇四三六（三六）一一六〇
昭和46年経済学部経済学科卒

法政大学経済学部同窓会
事務局長　髙森正雄
〒191-0002 東京都日野市新町一―八―一九
昭和45年経済学部経済学科卒（渡邉佐平ゼミ）

法政大学理事　経済学部同窓会副会長
文化シヤッター株式会社
代表取締役社長　潮崎敏彦
昭和45年経済学部卒

株式会社　榎本興産代表取締役
法政大学経済学部同窓会
副会長　榎本勝治
〒180-0014 東京都武蔵野市関前三―四―十一
電話　〇四二二（五二）七一七二
昭和40年経済学部卒

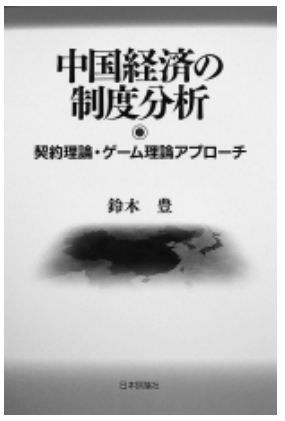
法政大学経済学部同窓会
副会長　菅野里見
〒192-0913 東京都八王子市北野台三―四六―一一
電話・FAX〇四二（六三七）二五三五
昭和42年経済学部卒

第28回森嘉兵衛賞

本学経済学部長 鈴木 豊氏にA賞

受賞作『中国経済の制度分析―契約理論・ゲーム理論アプローチ』

第28回森嘉兵衛賞は、本学関係者を対象とするA賞に、鈴木豊著『中国経済の制度分析―契約理論・ゲーム理論アプローチ』（2020年、日本評論社刊）が決まった。発表等は書面で行われ、受賞者には、村田紀敏同窓会会長から賞状と賞金が授与された。今回はB賞（地方・地域研究対象）に該当作がなかった。



審査員の高い評価を受けた受賞作

鈴木豊氏略歴　1990年東京大学経済学部卒、95年東京大学大学院経済学研究科第2種博士課程単位取得退学、同年法政大学経済学部特別研究助手、96年同経済学部助教授、99年経済学博士（東京大学）、01年スタンフォード大学経済学部客員研究員、02年および11年ハーバード大学経済学部客員研究員、04年法政大学経済学部教授、17年同経済学部長、現在に至る。

著書に『完全理解 ゲーム理論・契約理論』、編著に『ガバナンスの比較センター分析』などがある。

《審査報告（抄録）》

鈴木豊著『中国経済の制度分析―契約理論・ゲーム理論アプローチ』は、中国経済の制度分析（重要トピック：中央地方関係、所有制改革、貿易vs直接投資、産業組織）を契約理論・ゲーム理論アプローチで書き下ろした労作で、類書のない独創的な研究である。

本年は、本学経済学部創設100周年記念の年に当たっており、本学部の学部長である鈴木豊教授の著作の森嘉兵衛賞の受賞は象徴的であり、大変おめでたいことである。

森嘉兵衛賞審査委員会
（委員長）村串仁三郎
（委員）廣川みどり（主査）、宮﨑憲治、竹口圭輔、木村清司

《講評（抄録）》

中国は西欧諸国や日本とは根本的に異なる経済体制を前提としながら、前代未聞のスピードで経済発展を成し遂げたが、それを支えた制度的な要因は何なのか。本書はこの問題の解明に光を当てる。

中国経済の制度的諸条件について、ミクロ的な理論的基礎を与える試みや実証分析は数多く見られるが、本書は、中国経済の制度分析を、契約理論・ゲーム理論アプローチで一貫して体系的に書き下ろしている点で新奇性が高く、今後の中国研究に大きなインパクトをもたらすものとなろう。

本書は4部建て7章からなるが、経済発展を支えた諸制度の役割を契約理論やゲーム理論を駆使して分析したのは和文では類書がなく、各章では制度の正確な把握とオリジナリティ溢れる緻密な理論分析が展開され、画期的なものである。途上国経済についての同様な分析の嚆矢となり、貴重な情報源ともなるであろう。また、大学院生のみならず野心的な学部学生にも、面白く刺激的な書物ともなるに違いない。

鈴木氏は経済学研究科長に引き続く経済学部長の激務の中で、第一線の研究者として果敢に研究を続け、その成果を見事に結実させた。驚きとともに、心より称賛のことばを送りたい。

（主査・廣川みどり）

受賞の言葉　鈴木 豊

今回、経済学部同窓会より、名誉ある『森嘉兵衛賞A賞』を頂きましたことを大変光栄に思います。本書は、西欧諸国や日本とは根本的に異なる制度を前提としながら、前代未聞のスピードで経済発展を遂げた中国経済の制度分析について、その重要トピック：中央地方関係、所有制改革、貿易vs直接投資、産業組織に焦点を当てて、「契約理論・ゲーム理論アプローチ」で一貫して体系的に論じた書物です。私にとっては、ちょうど30年前に、東京大学経済学部の卒業論文にて『大内兵衛賞』を受賞して以来の久々の受賞となります。今回の受賞を励みにして、多忙な中でも、これからも着実に研究を積み重ねていきたいと思います。

教授会執行部と同窓会役員が定例懇談会を開催

7月22日（水）10時30分から約1時間、教授会執行部と同窓会役員との懇談会が開かれ、教授会からは、鈴木豊学部長、杉本龍勇、竹口圭輔両教授会主任、平瀬友樹教授会副主任及び奈良明弘経済学部事務課主任が出席し、当方からは加藤毅会長代行、花澤良三幹事長、高森正雄事務局長、嶋崇組織部会長に加え、高橋将昭、小倉尚、菅野里見の3副会長が出席した。

同窓会からは、新型コロナの影響による6月の定期幹事総会の書面開催への変更や12月の忘年パーティーの開催見送りなどについて報告を行ったほか、同窓会による経済学部創設100周年記念誌発刊に向けての準備が順調に進んでいる旨を説明しつつ、記念誌への先生方からの寄稿に対し謝意を表明した。

教授会執行部からは、10月31日（土）に予定している経済学部創設100周年記念行事について、懇親会など大規模な集会については見送らざるをえず、また、記念講演や学生プレゼンテーション大会についても、オンラインの活用を含め、開催に工夫を凝らす必要があるとの報告があった。

最後に、同窓会から、引き続き100周年記念行事への協力を惜しまない旨の意思を伝えた。（高森正雄）

『経済学部100周年記念誌』

法政の個性あふれる記念誌に

記念誌編集委員会　嶋 崇

経済学部同窓会が企画している『法政大学経済学部100周年記念誌』（以下『100周年記念誌』）は、6月末で原稿募集をひととおり終え、編集作業へと入るところです。同窓会員はもとより、元教員・現役教員や関係者など多くの方々から原稿をいただきました。お礼申し上げます。

私は主に「論考編」を担当しておりますが、熱のこもった読み応えのある論文が寄せられています。それぞれが個性あふれるものですが、全体を通しての感想としては、「経済・社会のありようを問うもの」としての論文が多いように思います。法政大学経済学部は、マルクス経済学の牙城として一時代を築き上げましたが、「社会の問題点を根本から問い直す」という学部の個性が、投稿いただいた論文の中にも活かされているような気がします。

『100周年記念誌』の総ページ数は、当初想定していた100ページを大幅に超えそうです。充実したものができると思いますので、ご期待ください。

大学の最新情報

●学位授与式と入学式を中止

今年に入って新型コロナウイルス感染拡大がみられ、大学は本年3月の学位授与式と4月の入学式について、学生の健康・安全や社会的責任を考え中止の措置をとった。二つの行事は大学にとって極めて重要な儀式だが、苦渋の決断となった。

なお、田中総長、佐々木校友会長、渡辺後援会長から、ウエブ上で卒業生と新入生に祝辞と励ましの言葉が贈られた。

●感染症拡大に伴い授業や施設利用に関して学生等に告示

大学は2月以降、危機管理対策本部を設置し、新型コロナ感染拡大防止に向けて入構ルールや活動指針をそのつどＨＰで告示してきた。とりわけ緊急事態宣言解除後、東京都の状況が深刻になってきたため、7月10日付で7月13日～19日の活動指針を発表した。①引き続き不要不急の通学通勤は避ける②一部授業の対面実施を停止し全授業をオンラインで行う③課外活動のための施設利用は再停止する。大学は今後も状況に応じてさらなる制限または緩和を行うので、告示に注目し行動願いたいとしている。（詳細は大学のＨＰ参照）

●総長が自宅待機中の新入生・在学生にメッセージを発信

新型コロナ蔓延で緊急事態宣言が発出され、大学は休業を要請された。学生も自宅待機を余儀なくされた。新学期を迎えこれからキャンパス生活が始まるところ、このような苦境を少しでも乗り越えてもらうため、田中総長が原則週1回学生向けに、デジタル上で大学の紹介や学習方法、読書案内などのメッセージを発信することとした。第1信は「あなた自身の言葉を見つけてください」、第2信以下は「コロナブルー」「元教員・内田百閒を読む」など。現在、15信までＨＰで読める。

●オンラインで海外大学と交流会を開催

法政大学総長室教学企画室では、オンラインでベトナムハノイ日越大学、中国の北京科技大学、天津大学との交流会を開催した。5月29日から6月3日にかけて3回実施。テーマは「新型コロナウイルスの前後で自分の生活はどのように変わったか」「オンライン授業に関すること、家での過ごし方、マスク、留学、就職」など。参加者の感想は「相手の国の事情が分かってよかった」「コロナ対策の比較ができた」など。交流会はいずれも好評で、今後も学生の参加を期待している。

●「新型コロナウイルス緊急対策奨学基金」を創設、募金を開始

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、多くの学生がアルバイト中止を余儀なくされた。また家族にも影響が少なからず広がっている。そこで大学は学業継続が困難になっている学生を救う奨学基金を設置し、このほど募金を開始した。多くの卒業生の支援を期待しているのでご協力を！

・募金額　一口10万円（これ以下でも可）
・締切り　本年9月30日
・問合先　卒業生・後援会連携室　募金課
　電話03－3264－9807

（馬鳥）

2019年度決算及び2020年度予算　（単位：千円）

〈収入〉	19年度予算	19年度決算	差異	20年度予算
年会費収入	2,382	2,217	△165	2,149
終身会費収入	184	394	210	375
寄付金収入（一般活動支援）	350	202	△148	250
広告収入	1,600	1,450	△150	1,350
ＨＰバナー広告収入	150	120	△30	120
預金利子収入	0	0	0	0
校友会費納入還付金	38	14	△24	14
校友会活動補助金	117	129	12	0
雑収入	250	95	△155	0
収入計	5,071	4,621	△450	4,258
人件費	1,370	1,599	229	1,500
事務用消耗品費	70	60	△10	60
事務用備品費	187	131	△56	30
事務用印刷費	350	324	△26	300
通信運搬費	250	230	△20	200
会報発行費	1,640	1,593	△47	1,450
会報発送費	470	364	△106	355
交通費	8	5	△3	－
賃借費	170	191	21	60
会合費	20	18	△2	－
渉外費	258	186	△72	120
学術奨励事業費	100	100	0	100
雑費	150	136	△14	130
支出計	5,043	4,937	△106	4,305
［前年度よりの繰越金］		1,732		
収入－支出		△316		
終身会費次年度繰越金		1,578		
次年度以降会費収入等		82		
［次年度への繰越金］		3,076		

（学生支援積立金）		（支出内訳）	
前年度繰越金	1,674	各種大会賞金・支援金	115
収入（寄付）	202	同窓会イベント招待	76
支出（内訳右欄）	386	メルマガ初期費用	165
次年度繰越金	1,490	振込手数料	2
		未払い（表彰学生関係）	28
平和記念事業収支繰越金	153	25周年記念事業収支繰越金	268

事務局

大浦さんに代わって 進藤さんが新局員に

5年にわたって下浦三重子さんとともに同窓会事務局を切り回してくれた大浦幸子さん（写真右）が5月末に退職され、代わって4月1日から進藤記代子さん（左）が勤務しています。よろしくお願いします。

大浦幸子さん（右）
進藤記代子さん（左）

法政大学経済学部同窓会
副会長　佐々木 範光
〒359-0007　埼玉県所沢市北岩岡一―一七
電話　〇四（二九四一）七八〇六
昭和42年経済学部卒

村串仁三郎法政大学名誉教授　著
「高度成長期日本の国立公園」
――自然保護と開発の激闘を中心に――
（時潮社、三五〇〇円）
著者は一九六九年法政大学大学院（博）単位取得
博士（経済学）
経済学部同窓会副会長・ＨＰ副部会長

株式会社　森パール
取締役会長　森 勲
〒103-0022　東京都中央区日本橋室町一―一二―一一　森パールビル
電話　〇三（三二四六）一四九一（代）
ＦＡＸ　〇三（三二四三）〇二八七
昭和35年経済学部商業学科卒

法政大学経済学部同窓会
顧問　横山 昭夫
（株）日本プリント取締役相談役
東洋サービス（株）特別顧問
自宅　〒202-0005　東京都西東京市住吉町一―一三―一
電話・ＦＡＸ　〇四二（四二一）六〇二二
昭和31年経済学部卒

『同窓会報』は会員交流の広場です
法政大学経済学部同窓会
副会長
広報部会　小倉 尚
〒145-0065　東京都大田区東雪谷三―一六―八
電話・ＦＡＸ〇三（三七二九）一八九五
昭和40年経済学部卒（高橋誠ゼミ）

法政大学経済学部同窓会
事業部会長　元角 昌三
〒188-0011　東京都西東京市田無町一―一二―六
電話　〇一二〇（四〇八）〇三八
一九七〇年経済学部卒

法政大学経済学部同窓会
財政部会長　田口 雅美
〒267-0057　千葉県千葉市緑区大木戸町九三―六九
電話　〇四三（二九四）五〇八八
一九七一年経済学部卒

法政大学経済学部同窓会
財政部会　副部会長
会田 久仁夫
〒336-0017　さいたま市南区南浦和
三―二七―二二―一〇〇六
昭和42年経済学部卒

シリーズ

先輩・後輩ご同輩

お元気ですか 73

経済学部同窓会　顧問

岡田　脩（おかだ　おさむ）さん

（1956年３月　経・経卒）

私の学生時代は大内兵衛総長を筆頭に、有名な大内門下生が教授陣に名を連ねており、経済学部全盛期でありました。卒業式での総長の「鶏口となるも牛後となるなかれ！」との訓示は、私の人生の指針となりました。

銀行で信用の大切さ学ぶ

―丸となり取り組んだ同窓会事業

岡田さんは謙虚なお人柄である。高い倫理観とバンカーにふさわしい見識の持ち主でもある。また、人を引き寄せる男の魅力があると多くの仲間がいう。だが、このコラムご登場の依頼にはもっぱら遠慮がち。

新型コロナの災禍、リモート取材となったが、岡田さんの学生時代の思い出、39年間の銀行マン生活、そして同窓会活動など、それぞれの人生を語ってもらった。（佐々木・高橋）

＊　＊　＊

『金融論』の渡辺佐平ゼミで鍛えられる

――この度は、「米寿」を迎えられ、おめでとうございます。

「ありがとうございます。本年5月、88歳の誕生日を迎えたが、随分、長く生きてきたものです」

――岡田さんの学生時代をお伺いします。

「当時の法政大学は、大内兵衛総長を筆頭に、有名な大内門下生が教授陣に名を連ねていました。いわば、マルクス経済学の全盛期であると同時に、経済学部の全盛期でもありました。卒業式での大内総長の「鶏口となるも牛後となるなかれ」との訓示は、私の人生の指針となりました。3年生からは『金融論』の第一人者・渡辺佐平ゼミに入り鍛えられました」

――卒業後は。

「当時、就職試験日が一番早かったのは金融機関でした。比較的、学閥色の薄い協和銀行（現、りそな銀行）に入りました。同期の仲間は40人余りでした。

2年ほど前までは100人くらいでしたから、当時の厳しい採用状況が判ります。しかし、私は就職に関して、余り苦労した記憶がありません」

支店長を5カ店12年間務める

――銀行員生活はどうでしたか。

「最初に配属されたのは東京のビジネス街のど真ん中、丸ビルの一角にある丸の内支店でした。取引先は旧古河系を中心とした上場企業ばかりで、そこに勤める人達からいろいろ学びました。特に住友金属鉱山の方々からは「信用の重要さ」「時間を守ること」等を教えられました」

「銀行員は名刺1枚あれば、どんな大会社の社長でも、すぐに会って話を聞いてくれる。このことは仕事を通じて実感しました。もちろん、銀行の信用があってのことは言うまでもありませんが。このように、銀行員としてスタートの段階で、人間関係の大切さ、信用の重要性、仕事に対する向き合い方を学びました」

「この間、前橋支店長を皮切りに世田谷、中野など5カ店の支店長をして、12年余り支店経営に関する貴重な経験をしました。支店経営の重要なことは、融資の状況、内部事務の状況、外部活動の3つのポイントを押さえることです」

「その後、1985年（昭和60）に、関連会社に移り10年余り、企業経営の一翼を担いました。そこでは銀行時代の経験と顔が大いに役立ちました。このように、協和銀行では関連会社を含め約39年間、お世話になりました」

印象深い創立20周年記念事業

――同窓会に入ったキッカケは。

「95年（平成7）に定年退職したが、同期の横山昭夫さんから強く薦められたからです」

――総務部会長として、大変な活躍されましたが。

「齋藤文雄先輩の後を引き受けました。部会は午後6時に始まり8時頃終わりましたが、その後の飲み会は楽しかったですね。会議の続きで、侃々諤々のいたい放題。話題に夢中になり、自宅（横浜）に帰るのが午後11時半過ぎ。しかし、それを負担に感じたことは一度もありませんでした。むしろ、部会が楽しくて、楽しくて、自分から進んで参加していました」

――同窓会活動で、最も印象に残っていることは。

「創立20周年記念事業です。この記念事業の最大の課題は、参加人員をどれだけ動員できるか、という点でした。動員目標は500人と決定しましたが、この数字は従来の実績を大幅に上回るものでした。ところが、この難題に挑戦するチームリーダーに私が指名されたのです」

「チームのメンバーと何回も、何回も知恵を絞り協議を重ね、結論として〝あきらめずに行動するのみ、やるしかない！〟ということでした。私は、どんなに小さな会合にも足しげく顔を出し、参加を呼びかけ、手紙も沢山出しました。特に3月永眠された田口裕吉さんや、女子高OGの横田禮子さんと星規子さんの活躍が目立ち、今でも感謝しています。結局、目標には届きませんでしたが、予想を上回る参加人数を確保し、20周年記念事業は大成功でした。諦めず行動すれば、結果は相応に付いてくると実感した次第です」

同窓会加入を強く訴えたい

――同窓会のメリットは何ですか。

「同窓会に参加することで普段、知り合うことのできない人達と昵懇なお付き合いが可能になります。

例えば、通常、大学の総長や教授陣などと知り合う機会などありません。私も増田総長とは同窓会を通じて知り合い、亡くなられるまで大変親しくお付き合いを賜りました」

「私は特に、若手卒業生の皆さんに強く訴えます。どうか同窓会に加入して、「経友会」の仲間として絆を深めて参りましょう」

通教支部だより

「通信教育部校友会」が誕生

78年卒　大川　成一

新型コロナウイルス感染拡大のため、「百年に一度」と言われる緊急事態です。

大学は入構禁止になり、授業は対面ではなく、すべてオンラインで行われています。

いつもこの時期の会報の記事は、卒業祝賀会や経済学部同窓会への勧誘などの報告ですが、今回は卒業祝賀会が中止になりました。そこで卒業生に「通教だより」を送付という形になり、新卒で経済学部同窓会に入会された方とはメールでやり取りができました。

今は、通常の同窓会の活動が難しくなっていますが、嬉しいニュースがあります。

法政大学通信教育部校友会（通友会）という新しい組織が誕生しました。私は直接、関与していませんが、ホームページで得た内容を簡潔に紹介します。

この会は通信教育課程を卒業した会員で構成され、設立が3月1日付けで満場一致で承認可決されたということです。そして一般社団法人法政大学校友会のパートナー組織に登録されました。会長は法学部出身で、副会長には経済学部卒業生が就任しています。役員には文学部の方も含まれ、在学中の人も役員になっているのでまさに「オール法政」と言えます。

会長の「ご挨拶」では「会員の皆様が他の卒業生組織に参加する際のプラットホームの場所を提供することもでき、（中略）喜びと誇りを感じ、多様な成長を続けられる『法政大学通信教育部校友会』を目指し」と意気軒高な宣言をしています。

こうした「若い芽」は大きな期待ができるものと感じています。まさに朝ドラで放送されているタイトルのエール（応援）を送りたいと思います。

（5月23日記）

9月入学に反対

92年卒　川上　良一

今回のウーハン肺炎流行にともなって、通信教育の新たな利点が浮き彫りになりました。通信教育は、勤労者や遠隔地居住者のために教育の機会を提供する役割を担ってきたのですが、防疫上の観点からも極めて有効な学習手段であることが判明したからです。今後の悪疫流行に備え、さらなる防疫教育体制の確立が望まれます。

その一方、騒動の最中一部の都府県知事が的外れの発言をして物議をかもしました。「9月入学」の提案です。これに対し、私は憤りを禁じ得ません。

第一に、提案の時期と動機が不謹慎。新学期をいつ始めるかは、平時に冷静になってあげつらうべき課題です。彼らの自己顕示欲に駆られたパフォーマンスは、火事場泥棒に等しい行為です。

第二に、教室授業ができないからといって入学を半年も遅らせるというのは暴論。人生を狂わされる児童生徒の身にもなってください。学校でいじめられて不登校に陥った小中学生は、所定の就学年限で卒業証書を受け取っています。学徒勤労動員の中学生や女学生は、本来の就学年限より1年短い4年間で卒業していました。

第三に、9月入学そのものが桜国日本の風土に不適当。私自身、富士短期大学および法政大学の通信教育部で学ぶにあたり、秋季入学・9月卒業を2度にわたり経験しました。残暑や台風の季節に、入学式はふさわしくありません。

活動報告　2020・5～8月

5. 18　会務監査（書面）
　　会報80号編集会議（書面）
　21　第７回代表・常任合同幹事会（書面）
6. 6　2020年度定期総会（書面）
　22　「ＯＢＯＧから学ぶ実践知」リレー講義ビデオ録画撮影
　24　校友会総会
7. 4　「ＯＢＯＧから学ぶ実践知」リレー講義（オンライン）
　16　第１回代表・常任合同幹事会（書面）
　22　教授会執行部との懇談会
　31　会報初校
8. 5、11、14　会報校正
　28　会報発送

訃報　2020年5～7月

ご遺族の方から次の会員のご逝去のご連絡がありました。

同窓会発展のために、ご尽力ありがとうございました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

（　）は西暦卒年　敬称略

飯田　憲治（62）
生沼　正英（85）
小澤　一邦（56）
川底　成行（57）
平工　喬（63）
村上　光洋（58）

法政大学経済学部同窓会常任幹事
応援団ＯＢ・ＯＧ会幹事
東京宅建倶楽部幹事
大野文義
〒177-0051　東京都練馬区関町北二―三四―一
電話　〇三（三九二〇）一一一〇
昭和26年経済学部卒

法友体育会顧問
法友ハンドボールクラブ名誉会長
川﨑保之
〒183-0035　東京都府中市四谷三―六四―二四
電話　〇九〇（一六四八）六三〇一
昭和38年経済学部経済学科卒

経済学部二部会計学研究会ＯＢ会
公認会計士
税理士
桑原正信
〒306-0016　茨城県古河市古河544―147
昭和43年経済学部商業学科卒

胡口靖夫サマルカンド外大名誉教授　著
『ウズベキスタン「ナボイ劇場」建設の真実』
（同時代社、１８００円）
「ウズベキスタン愛に満ちあふれた本です」
（村田紀敏氏のご祝辞より）
著者は博士（学術）１９６９年法政大学経済学部修士修了。（日高ゼミ）

高橋建設興業株式会社
代表取締役会長
髙橋久之
〒212-0004　神奈川県川崎市幸区小向西町四―六五
電話　〇四四（五五一一）〇五五七
ＦＡＸ　〇四四（五五五）一二八七
昭和35年経商卒

オフィス曽根
代表
曽根章乃
〒105-0013　東京都港区浜松町一―一―六―四〇四
電話　〇三―五五六五―四〇六五
ＦＡＸ　〇三―三四三七―〇七八三
携帯　〇八〇―三五六七―〇四三九
Email akinos.3567@ezweb.ne.jp

株式会社桐屋
代表取締役社長
田島榮二郎
横浜市戸塚区戸塚町一〇五番地
電話　〇四五（八六一）五七四一（代）
昭和37年経済学部商業学科卒

一般社団法人
東京羽田ヴィッキーズ女子バスケットボールクラブ
日本女子トップリーグ（Ｗリーグ）参戦
代表理事
高野稔
昭和50年経済学部卒
０９０―２１７６―４４６９

教授登場 67

経済学部准教授 冨永（とみなが） 靖敬（やすたか）さん

今回は新型コロナウイルスの影響で対面での取材がむずかしく、先生に書面で質問し、お答えをいただくという書面インタビューになりました。先生のご専門は国際関係論、なかでも「非伝統的」安全保障が研究テーマ。30代半ばの大変若い先生です。（小倉／高橋）

＊　＊　＊

将来は地元でバイクショップを

私は、愛媛県の中でも特にみかん栽培の盛んな八幡浜市の出身です。海と山に囲まれた自然豊かな場所で18歳まで過ごしました。

小・中・高校を通して勉強は全く好きではなく、教科書を自宅に持ち帰ったことはほぼありません。中学校では野球部に所属していましたが、野球よりも音楽バンドやバイクに熱中していました。それでも高校は愛媛県立八幡浜工業高校の機械科に進学しましたが、お世辞にも素行の良い生徒ではなかったです（笑）。

当時描いていた私の将来像は、高卒後バイクの専門学校に行き、都会でしばらくバイク整備士をし、地元に帰ってバイクショップを開き、早めに結婚し、子どもを持ち、地元の友人と地元で生きていく、というものでしたが、高校3年の時に母親に、大学進学を考えてみては、と言われたことからそれが変わっていきました。大学など考えたこともなかったのですが、内心何かを成し遂げたいという思いもあり、兄が以前通っていた塾の先生に指導していただいて全教科を小・中学レベルから学びなおし、1年浪人して同志社大学に入学しました。これには勉強もさることながら、先生の精神的なサポートが大きく、受験の際には、自分が合格したいというより、恩師を喜ばせたいという思いの方が強かったですね。

研究者への道を選ぶ

同志社大学では、ひたすら勉強に打ち込みました。大学時代の思い出はほとんど図書館にいたことしかありません（笑）。

所属したゼミの先生がタイ南部の民族紛争を研究されていたので、私も武力紛争やテロリズムなどを含む国際関係論に興味を持つようになり、同志社卒業後、東京大学公共政策大学院に進学しました。修士課程1年次の頃は民間企業への就職も考え、実際、数社から内定をいただきましたが、最終的には研究者として生きていくことを選択しました。その後、3年間の在外研究を経て、大阪大学で博士号を取得しました。

大学進学を決めてから10年、目まぐるしく人生が変わっていった気がします。

©UNHCR/Antwan Chnkdji
内戦はなぜ起こるのか――UNHCRが開設したシリアのコミュニティセンターの子供たち（アレッポ東部、2017年12月31日）

知識より、「なぜ」「メカニズムの理解」を大事に

専門は非国家主体を対象とした安全保障研究

「非伝統的」安全保障を計量分析

国際関係論は経済学に比べると新しい学問です。20世紀の世界が二つの大戦を経験し、なぜ戦争は発生するのかという疑問から研究が始まった学問ですから、中心的なテーマは戦争です。なかでも私が研究する「非伝統的」安全保障論は内戦やテロリズムなどの非国家主体をテーマとしています。私はこれまで、一国内の政府対反政府組織の武力衝突がなぜ、どのようなメカニズムで発生するのか、国連を含めた他国の介入に効果はあるのか、テロ組織のリーダーの排除やテロ組織に対する経済制裁はそもそも効果があるのかなどの研究論文を国際誌を中心に発表してきました。

「政治学」は、なぜ政治が必要かという問いから、国家の役割、政治体制、執政、さらに国際関係の諸側面について教えています。

いずれの授業も、主眼は知識を教えることではなく、なぜ戦争が発生するのか、なぜ政治体制が権威主義から民主主義へと変化するのか、といった「なぜ」のメカニズムを理解してもらうことですが、受講生が前者は約200名、後者は300名以上と多いので、指導の難しさもあります。

専門ゼミでは、学生は各自のテーマで因果関係を推論する仮説を設定し、データを集めつつ、Rという統計ソフトを用いて、自分の仮説をデータを使って統計的に検証し、結果を発表します。学生は、因果関係の推論ということが最初は分かりにくいと思うようですが、実際に自分でデータを収集し解析し論文を書くことを経験すると、理解も大きく変わってきていますので、頼もしさを感じます。

知識よりもメカニズムの理解を

法政大学には18年に着任し、現在は国際関係論A／B、政治学A／B、入門ゼミ、演習（専門ゼミ）を担当しています。「国際関係論」は、主に安全保障をめぐる国家間関係および非国家主体をめぐる国際関係に焦点を当て、90年代以降、アメリカで中心的なパラダイムとなってきたゲーム理論をベースとした国際関係論を教えています。

【略歴】1984年愛媛県生れ。2008年同志社大学法学部卒業、10年東京大学公共政策大学院修了（修士）、13年カリフォルニア大学サンディエゴ校（MA）、16年大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程修了（博士）。16年早稲田大学社会科学総合学術院助手、17年同大学高等研究所助教。18年法政大学経済学部准教授。その間、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、シンガポール・南洋工科大学で客員研究員を務める。

主要論文「テロ組織首謀者に対する標的排除の波及効果の影響評価」（英文）等。

漫歩漫筆

法政大学界隈の芸術家2
島村抱月と松井須磨子

島村抱月は明治4（1871）年、島根県に生まれ、大正7年、47歳の若さで、当時全世界で流行していたスペイン風邪のため牛込区（新宿区）横寺町で急死した。

抱月は東京専門学校（早稲田大学）を卒業し、恩師坪内逍遥の下で『早稲田文学』の編集に携わり、母校の講師を務めるかたわら読売新聞に入り文芸評論を多数書いた。オックスフォード大学とベルリン大学に留学し、帰国して母校の教授となり、『早稲田文学』を復刊して主宰。自然主義文学運動の旗手となった。そして逍遥と文芸協会を設立し、演劇研究所で新劇運動を始めた。しかしその看板女優の松井須磨子との恋愛が醜聞となり、逍遥との関係が悪化、抱月は文芸協会と母校教授を辞め、須磨子は退会処分になった。

島村抱月

松井須磨子

同年抱月は須磨子らと劇団芸術座を結成。トルストイの小説を抱月が脚色した『復活』が大好評となり、須磨子が劇中で歌う「カチューシャの唄」が大ヒットした。海外公演など数々の成功も束の間、抱月が急死すると、その2カ月後に須磨子は抱月の後を追って自殺した。32歳であった。新宿区弁天町の多聞院に須磨子の分骨墓がある。

小生は、この百年前のことが新鮮で人間味があり、彼らの真面目で信念を貫く姿が往来するのを感じます。（高将）

多摩の息吹

現役学生のキャンパス便り

現代ビジネス学科3年
芦沢（あしざわ）　幸香（さちか）

経済学部学生会代表を務めさせていただきます現代ビジネス学科3年芦沢幸香です。佐藤萌花と共に代表を務めさせていただきます。

はじめに、学生会では教授や同窓会の方々のご支援ご協力のもと、プレゼン大会やディベート大会などを運営してきました。ご支援ご協力誠にありがとうございます。今年度の学生会は、経済学部100周年を活気のある年にするため、前回の意見がより反映されたイベントを開催できるよう努めて参ります。先の見えないことが多くありますが、イベントの運営など柔軟に準備を進めていこうと考えています。

私は法政大学の地域交流を目的とした学生プロジェクトに所属しています。このプロジェクトでは大学周辺地域の住民・行政と連携し、地域活性化のために行事の企画や運営をします。昨年度は地域でとれた野菜を使った料理で、地域住民の世代間交流と大学生・地域住民の交流をテーマにイベントを行いました。大学周辺の人・文化について知ること、高齢化する地域で学生として何ができるのかを他学部の学生とそれぞれ違った切り口で考え、行事を企画することがとても楽しく貴重な経験になっています。そして、地域の規模的に私たちの企画・運営に対する評価が直接わかるので、とてもやりがいがあります。

最後になりますが、今年度も学生会は経済学部の発展に貢献していきますので、よろしくお願いいたします。

経済学部の職員人事

20年4～7月

■経済学部事務課
【専任職員】
《転出》細井さやか（経理部経理課へ）
《転入》榊原みどり（キャリアセンター小金井事務課より）
（以上20年6月1日付）
【嘱託職員】
《着任》中島由記
（以上20年7月1日付）
■経済学部事務課資料室担当
【嘱託職員】
《退職》進藤記代子
（以上20年3月31日付）
《兼務》辻博子・光橋愛枝（講師室担当と兼務）
（以上20年4月1日付）
〔教員人事（4月1日付）は本紙79号で既報〕

コロナ禍とたたかう現役学生

リモートの発達で大きく変わる生活

現代ビジネス学科3年　秋山　結菜

新型コロナウイルス感染症拡大で、一番影響を感じたのは授業のオンライン化です。学校に行かない分、Ｚｏｏｍ（ウェブ会議システム）や動画配信などの形で進められることが多く、急なことでとても戸惑いました。しかし、今となってはオンライン授業やオンライン飲み会などは違和感がなくなってきて、通信状況の問題などの多くが解決されていくことで、リモートが主流になり、以前とは大きく生活が変わったように思います。

また、私は現在3年生で就活の年です。このような状況の中でインターンシップがどうなるのか、就活の制度がどうなるのか、自分の未来に関わってくることなので、とても不安ではあるのですが、頑張っていきたいと思います！

行動の制限でかえって充実する勉強時間

現代ビジネス学科3年　三浦　直也

新型コロナウイルス蔓延によって変化したことは生活スタイルと物事の考え方です。

これまでは、やりたいこと、好きなことができましたが、今ではそれも制限され、自由に遊びに行くこともできなくなっています。そこから、学校に普通に行けること、自由に行動できることのありがたみを痛感し、日々の日常が貴重だったことを学ばされていると感じます。

他方で、今までの生活とは違い、現在は通学時間がかからないため、その時間をゼミの研究や自己の勉強に当てることができています。それにより1日の勉強時間が圧倒的に増加しており、ストレスが多いと思われる在宅時間も大変充実しています。

日本トーマス・シェリング経済学会準備会
呼び掛け人
中村寿徳（Schelling's Twitter follower）
携帯　〇八〇（二六七〇）三七五二
HP：http://tcsassociation.web.fc2.com

南宗谷カントリー倶楽部
顧問　深井信朗
〒098-5204　北海道枝幸郡枝幸町歌登南町三八〇―四
電話　〇一六三（六八）二八三六
昭和36年経済学部商業学科卒

二度栗山興業株式会社
取締役会長　宮内良雄
昭和26年経済卒

文京法友会
相談役　高橋将昭
昭和34年経済学部卒

経友プラザ

会員短信

（　）は西暦卒業年です

北海道から

オンライン交流サイトの開設を

川南　卓也（17年卒）
岩見沢市　42歳

イベントの自粛や中止が相次ぎ自宅にいる時間が増えたなか、オンライン飲み会・お茶会や会員限定のオンライントークショーといったインターネット上での交流が盛んになりました。

東京へ出向くのが難しい地方在住の会員が参加しやすい利点を考慮し、我が経友会でも会員限定の交流サイトを設けてオンライン上でイベントを実施することができないでしょうか。シニアのスマートフォンの利用が急増しており、オンライン××という言葉も社会に定着しています。是非、ご検討をお願いします。

宮城から

女性に鉄の意思は無理？

小林　伸一（56年卒）
仙台市　88歳

心が一定であれば、仕事にしろ勉強にしろ、自分のペースをキープできるゆえに見通しが立つ。しかし女心は必ずしもそうはいかない。「風の中の羽のようにいつも変わる女心…」のために涙した紳士諸君もいたことだろう（失礼）。小生は、女性に鉄のような意志を期待することは無理だと思っている。男心を「とりこ」にしてしまうけれどね。

千葉から

94歳になります

菊池　二朗（50年卒）
八千代市　94歳

94歳になります。頭の働きも落ちてきています。

財政を黒字にすれば国民は赤字に

入野　守雄（59年卒）
千葉市　84歳

国家予算は国債発行で賄ってもその借金は国民のために使われる。政府は赤字だが国民は黒字になる。財務省は借金返済と増税を主張する。結果、経済成長が止まるのは世界で日本だけである。政府の借金が１０００兆円になりＧＤＰの２・２倍になる。だが成長して４倍にＧＤＰが伸びていれば０・５倍である。安倍首相がプライマリーバランス黒字化で借金を抑制し黒字にすれば国民は赤字になる。

政府が借金を返済しなければ財政が破綻するというのは誤りである。日銀が円を発行して返せばよい。インフレになれば日銀は円が発行できないし、増税してインフレを止めなければならない。だが今はデフレである。何故財務省は増税を主張するのか。大企業の法人税を半額にして天下るためなのか。

新型コロナに負けてたまるか

角田　勇（64年卒）
流山市　79歳

新型コロナなどに負けてたまるか。俺たちは戦中戦後を生きてきたんだ。今そういう思いです。それにしてもコロナのＰＣＲ検査を韓国や台湾のようにどんどん受けられないのが不安です。第2、第3の波が来なければいいのですが。小・中・高校と、先日から分散登校が始まっています。普通の学校生活が早く送れるよう祈ります。

老齢になって募る母校への気持ち

小池　健司（66年卒）
成田市　77歳

村田会長と同期の昭和41年卒業です。クラスはＢ組でした。入学して驚愕したのは、校内に中核派・革マル派の看板が所狭しと並べられ、拡声器からがなり声が聞こえてきたことです。

就職は大変でした。前年度に大手の山陽特殊鋼が倒産し、企業が採用窓口を一気に狭めた年でした。何とか中堅損保に入社し、役職定年の58歳まで、出身校法政の名に恥じることなく勤め上げました。全国に散っていった級友とは現在も交遊しています。

付属の法政二高出身なので、母校に対する気持ちは老齢になった今なお募っています。

足が弱り会合に出られず残念

酒井　邦夫（66年卒）
野田市　76歳

今年は年明けから全世界的に新型コロナウイルスに見舞われ、いまだ収束かなわず大変ですね。同窓会の皆様大丈夫でしょうか。

私、足が弱くなり、総会その他の会合等に出席がままならず残念です。会の今後ますますのご発展を祈っております。

東京から

『会報』79号の感想

胡口　靖夫（69年院卒）
渋谷区　78歳

『会報』79号の感想です。

①花澤良三幹事長様。

「マルクス経済学が見直されていますね。物事を考えるときの基本の一つとして経済学（部の授業の）枠組みに取り入れてほしいなという気がしています」というご発言は我が意をえたりです。我が師日高普教授は、93年12月の最終講義「遠景のマルクス」で「いつかマルクスは再生する。一つは福祉充実運動で、もう一つは資源環境問題です」と述べています。

②高森正雄事務局長様。

拙著『ウズベキスタン「ナボイ劇場」建設の真実』出版記念会の記事を拝読しました。友人が法政大学経済学部同窓会の結束力の強さにはビックリしたと言っていました。高森様の「名司会」のおかげです。

③故田口裕吉様。

至らぬ小生を常任幹事に推薦していただきありがとうございました。微力ながら「同窓会」発展のために努力します。右記の「出版記念会」ではいつもの笑顔を拝見できると思っていました。それがかなわずとても残念でした。安らかにお眠りください。

コロナで変わる働き方

早田　拓矢（19年卒）
中野区　24歳

新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛が明けましたが、世の中の働き方は大きく変わりそうです。リモート作業やテレワークが増えた緊急事態宣言中でしたが、宣言解除となった今でも、私の職場ではリモート作業が継続しております。歴史を振り返っても、時代の流れで業務形態は変わるものです。今を嘆いて変化に取り残されるのではなく、上手に適応していくことに焦点を当てることが重要だと感じる日々です。

出社とリモートをうまく使い分けることで得られるメリットは多くあるはずです。今回のコロナ禍を機に、変化する働き方へ柔軟に対応していきたいですね。

実践知と行動経済学に関心

堀　喜久夫（60年卒）
八王子市　83歳

「多様性輝くグローバル社会に」と題する『朝日新聞』の記事（19・12・29付）と今回送られてきた『同窓会報』79号を見て少々感激しました。前者は田中総長のパネルディスカッションの内容で、後者は鈴木経済学部長の発言記事です。校是である「実践知」と「行動経済学」に関心を持っていますので、今後これらの記事がありましたらご紹介ください。

山梨から

散歩を毎日15分

田中　常敦（59年卒）
甲斐市　83歳

だんだん身体の動きが悪くなってきました。が頑張っております。散歩も毎日15分ですが実施しています。頑張ります！

岐阜から

相撲部100周年、総長出席に感激

廣江　修治（59年卒）
羽島郡　86歳

前年、相撲部創立100周年の会で田中総長のご出席に接し、本当に感激いたしました。

長崎から

自治体首長のあとはボランティア活動

森　隆俊（60年卒）
平戸市　83歳

私は昭和31年経済学部経済学科に入学し、35年3月に無事卒業。4月から日本橋室町の第一證券に入社。早速甲府支店、本店金融法人部を経験し、昭和39年に豊橋支店営業部へ転勤、4年間勤めたあと、家業の後継として長崎県の郷里に帰り、自営業（酒類・衣料等販売）に従事しました。

傍ら地方議員に入り、平成10年から地方自治体（「生月町」の首長を担うことになり8年間。平成17年10月に市町村大合併により新平戸市になりました。退職後は老人福祉事業や環境美化問題等人材を集め、ボランティア活動で頑張っています。

今年5月で83歳。母校のますますのご発展と後輩学生の活躍を祈ります。

若手会員の近況報告

公認会計士への第一歩を目指して

早田拓矢

経友会の皆様、平素よりお世話になっております。私が法政大学経済学部経済学科を卒業してから、はや2年が経過致しました。平成から令和へと元号が変わり、時代の節目にこのような執筆の機会を頂けたこと、誠に嬉しく存じます。

私が公認会計士試験に合格したのは18年の大学4年生のことでした。私は合格後、資格の学校ＴＡＣ株式会社へ就職し、現在まで公認会計士講座管理会計論講師として日々働いております。経友会の皆様とは立場・形は異なりますが、公認会計士の輩出・支援という面で私も尽力しております。また、19年末からＥＹ新日本有限責任監査法人にて監査業務も行っております。

社会に出て2年、人生は日々勉強・日々成長なのだと感じております。公認会計士試験合格後、公認会計士試験を合格し、法政大学を卒業した今でも、勉強が不要になることはございませんでした。その種類は学問に限らず、社会人としてのマナーや人生を豊かにするための勉強等々、まだまだ子供であることを痛感する毎日です。

しかし、法政大学で学んだことが確実に活きております。ゼミを通じたプレゼン力や計画能力は講義の質や経営者との対談に、経済学関連の授業で得た知識は市況を読み判断する力を与えて頂きました。

21年には修了考査を迎えます。公認会計士試験合格者から公認会計士へとステップアップし、皆様と同じ世界に立てることが今から楽しみでございます。

（19年経済学科卒、河村哲二ゼミ所属）

新入会員からひと言

磯部　孝志（89年卒）
東京都江戸川区

私は、2年前に中学校教員を退職し、親の介護のかたわら、通信教育部の教職生として商業科の免許取得のために励んでいます。約30年ぶりの学習には困難も伴いますが、経済学部ＯＢとして恥ずかしくない成績での修了を目指しております。皆様よろしくお願いします。

前田　大輝（19年卒）
東京都江戸川区

在学中、経友会には大変お世話になりました。卒業後、私も何か在学生の役に立てればと思い入会いたしました。今では大学時代の関りは、ゼミや同級生数人ほどとなってしまいましたが、最後に肩を組んで校歌を歌ったこと。私も経済学部の一員なのだと実感し、精力的に学生会の活動に取り組もうと思いました。

佐藤　萌花（3年生）
東京都八王子市

入会のきっかけは、昨年の経済学部同窓会でした。私たち学生は同窓会員の方々のたくさんの協力がある中で学んでいることを知りました。特に嬉しかったのは、最後に肩を組んで校歌を歌ったこと。私も経済学部の一員なのだと実感し、精力的に学生会の活動に取り組もうと思いました。

寄付者ご芳名

2020.5.7～7.7
（　）は西暦卒年
1口千円（敬称略）

〔経済学部100周年事業寄付は2面に掲載〕

【一般活動支援金寄付】

10口
秀真　賢治（58）

7口
原木　正司（71）
津金　富一（71）

3口
桑原　正信（68）
高橋　将昭（60）

2口
近藤　光夫（63）
徳田　訓康（62）
佐藤　征己（会友）
浦野五左衛門（61）

【学生支援金寄付】

2口
荒川　四郎（63）
石山　秀雄（75）

経済学部同窓会に入会しました

2020.5.1～7.30（　）は西暦卒年［　］は紹介者　敬称略

佐藤　萌花（学生）
前田　大輝（19）
［以上2名 菅野里見］

芦沢　幸香（学生）
［佐藤萌花］
森山　新作（82）

@事務局通信

新型コロナの影響で、こ多摩キャンパスも人っ子一人いない景色です。通常であれば学生で賑やかなのですが、今は時折先生を見かける程度です。事務局も大学の閉鎖に伴い4月中旬から6月上旬まで閉室し、事務局員も在宅勤務となっていました。幸い6月半ば以降は、構内立入りに関する大学の規制もやや緩和されたことから、通常どおり毎週火曜日と金曜日に開室しています。ただ、教室での本格的な授業がいつ開始になるか予断を許さない状況です。10月31日に予定されている経済学部創設100周年記念行事が予定どおり開催の運びとなることを祈るばかりです。（高森）

編集後記

▽1面特集では、経済学部創設100周年の特別講座「OBOGから学ぶ自由を生き抜く実践知」を取り上げた。同窓会から4名が講師を務めたが、その感想と講義の模様をそのまま紙面にした。お世話になった担当の田中優希先生にお礼申し上げます。今後はこのような講座を同窓会から企画提案したいと感じた次第。

▽経済学部創設100周年「記念パーティー」は新型コロナウイルス感染拡大への対応で中止となったが、学生プレゼン大会など式典は行われます。ご留意を。

▽諸行事の自粛・見送りの影響は本紙紙面にも及び、今号は残念ながら6ページ建てとなった。（小倉）